

町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1
電話：74-0212 FAX：74-0105
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

伝承していくことの大切さを学ぶ

▼第9回おしどり学園



▲日野の伝統文化を紹介する福代さん

1月19日、第9回おしどり学園を開きました。

今回は、「鳥取県日野町の民俗」と題し、鳥取県立博物館学芸員の福代宏さんの講演を行いました。

民俗学とは、一つの民俗の伝統的な生活文化や伝承文化を研究対象とし、文献以外の伝承を有力な手掛かりとする学問。日本では、柳田国男や折口信夫らをはじめとする民俗学者によって独自の発展をとげてきました。

福代さんははじめに、日野町を根雨・日野・黒坂地区に分け、根雨神社秋の例大祭や舟場の稲荷祭、板井原の亥の子さん、安原の総日待、本郷の七荒神さん、黒坂の舟流し、上菅のぬすつと石、ひの神楽といった地域の祭りや行事、民俗芸能を紹介していきました。

また、鳥取県教育委員会の調査事業として、「鳥取県の民俗芸能」「鳥取県の祭り・行事」を行ったことも紹介。当時の調査には、川上護さん(根雨)、森恵弘さん(黒坂)、牧智也さん(黒坂)の3人も参加し、おかげで貴重な資料を後世に残すことができたそうです。

「祭りの伝承によって、異世代や地域の交流、あるいは教育は深められる。ぜひ郷土の祭りや行事、精神を若い世代に伝えてください」と福代さん。学園生らは、今も地域に残る行事や伝承を伝承していくことの大切さを学んだようでした。

おしどり学園閉講式のご案内

日時 3月26日(月)午前9時30分
場所 町公民館 講堂

内容 ①修了証授与 ②講演「大山は平和のシンボル」/講師 郷土史家 大原俊 さん ※講演はどなたでも参加できます。

子どもたちの安全のために

▼日野町青少年育成会がパトロール



▲寒さの中、青少年の健全育成を願ってパトロール

寒さをものともせず、会員らは根雨地区内を一手に分かれ1時間ほどかけ啓発活動を行いました。

小中学生は冬休みの暮らし・生活心得として帰宅時間が午後5時と決められています。同育成会では、時間を過ぎても外出している小中学生には帰宅するよう指導を行ったり、高校生には会員からあいさつの声掛けを行いました。

冬休み期間中の12月25日、青少年育成会の会員10人で夜間街頭指導。パトロールを実施しました。

地域で見守り育てることが大切です。青少年育成会の今後の活躍が期待されます。

青パト会員募集中

町地域防犯・生活安全パトロール協議会(通称・青パト)では、パトロール活動に参加していただける会員を募集しています。不審者による事件を未然に防ぎ、明るい笑顔あふれるまちをつくりましょう。

会員になっていただける人は、協議会事務局(町公民館74-0212)までご連絡ください。

【活動日(巡回パトロール)】

▼根雨地区：週2回(月・木曜日) ▼黒坂地区：週1回(水曜日)

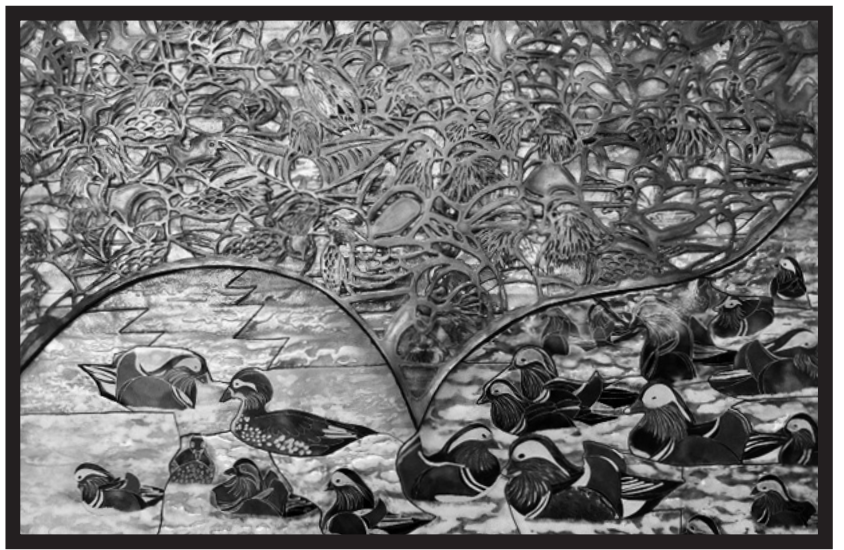
思い出のふるさとを 作品に

▶肥後永子さん七宝焼きの世界

町公民館では、千葉県我孫子市在住で下黒坂出身の七宝作家、肥後（旧姓生田）永子さんの作品展示を昨年12月から1月まで行いました。

肥後さんと七宝焼きとの出会いは、市の公民館講座での小物づくりがきっかけです。

七宝焼きの特長でもある焼成温度や色の盛り方によって様々な変化を見せる様子に魅せられ、次々と大作にも挑戦するように。意欲的に創作活動に取り組む中で、次第に多くの芸術家や関係者に認められるようになり、昨年行われた第51回日本七宝作家協会展では、会員の部で内閣総理大臣賞を受賞され



▲「羽音—水辺の朝」（肥後永子さん作）

ました。

受賞作品は、肥後さんが子どものころ、母親が蚕を育て、糸を紡ぎ、織物を織る様子を「ある母の日」という作品に仕上げたものです。

肥後さんの作品には、懐かしいふるさとの風景を題材にしたものが多く、今回の作品展でも日野川に飛来するオシドリをモチーフにした作品がありました。これからも肥後さんの一層の活躍を祈りたいと思います。

ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第55回

神話に関係する地名

貝原という地名は、貝原神社の祭神で、日本神話に登場する蛤貝比売（ウムガイヒメ）、蛸貝比売（キサガイヒメ）が由来といわれています。「私はオオクニヌシと結婚する」と、ヤカミヒメに求婚を断られたオオクニヌシの兄神たちは、彼を亡き者にしようとして、伯耆国の手間（現在の南部町）の山の麓へおびき出し、「この山の赤いイノシシを追い下すから、待ち受けていて捕える」と命じ、山頂から真っ赤に焼けた岩を落とし

地名が語る 日野の歴史③

たため、オオクニヌシは岩に焼かれて死んでしまいました。そこでウムガイヒメとキサガイヒメが貝の汁などを塗って治療し、オオクニヌシを生き返らせたといわれています。その名残か、南部町には赤猪岩神社や、手間（天萬）という地名も残っています。なお、「貝」は「狭（山間の狭い土地）」にも通じ、その地形から「カイハラ」と名が付いた可能性も考えられます。皆さんはどちらの説に口マンを感じますか？

協力：日野町歴史民俗資料館友の会 参考：「日野町誌」

☆町公民館にまちの皆さんから 寄贈いただいた本

- 雨月荘殺人事件 / 和久峻三
- 殺人現場は雲の上 / 東野圭吾
- 白銀ジャック / 東野圭吾
- 暗闇のセレナーデ / 黒川博行

ありがとうございました。

☆町公民館に新しく入ったCD

- カフェ・ジャズ BEST30 / J-POP ヒッツ・ピアノ BGM ベスト / 癒しのジャズ BEST
- 楽ジャズ リラックス / スギモトファミリー 喜びあふれる / リラッキング・ピアノ BSET / 森林セラピー / 楽ジャズクラシック / 家カフェ テラス / ネイチャーセラピー アクア

本・CDの貸し出しは町公民館へ